

2019年度立命館大学

国際言語文化研究所連続講座

# 食と政治

胃袋から支配する

参加無料

事前予約不要

10月4日(金)・17日(木)・18日(金)・25日(金) 17:00～19:00 (開場 16:30)

※第2回のみ 17:30～19:30(開場 17:00)

立命館大学 衣笠キャンパス 平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム

第1回  
10月4日

## 食と全体主義

報告1 ナチスのキッチン：ヒトラーの食糧戦争  
藤原 辰史 (京都大学)

報告2 パンと祖国：ファシズムの小麦戦争  
新谷 崇 (茨城大学)

コメント 山手 昌樹 (上智大学) 司会 土肥 秀行 (立命館大学)

第2回  
10月17日

## 食と甘さの世界変容

報告1 歴史における『甘み』の役割  
南 直人 (立命館大学)

報告2 砂糖菓子の情念  
橋本 周子 (滋賀県立大学)

報告3 砂糖の秩序、タバコのカオス  
安保 寛尚 (立命館大学)

コメント 西 成彦 (立命館大学) 司会 中村 仁美 (立命館大学)

第3回  
10月18日

## 食と言説

報告1 森の錬金術 一ツバメの巣の生産から消費まで  
佐久間 香子 (立命館大学)

報告2 伝統食品からグローバルな健康食品まで  
—ブルガリアのヨーグルトをめぐる言説空間—  
マリア・ヨトヴァ (立命館大学)

コメント 古川 勇氣 (立命館大学) 司会 小川 さやか (立命館大学)

第4回  
10月25日

## 食と支配・抵抗

報告1 日系アメリカ人戦時収容所における食と支配  
和泉 真澄 (同志社大学)

報告2 味覚と視覚の境界  
—1960年代米国における食品規制と企業戦略—  
久野 愛 (京都大学)

司会 坂下 史子 (立命館大学)



主催：立命館大学国際言語文化研究所  
協力：立命館大学食総合研究センター

お問合せ先

立命館大学国際言語文化研究所 〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1  
TEL：075-465-8164 E-mail：genbun@st.ritsume.ac.jp  
URL：http://www.ritsume.ac.jp/research/iilcs/

# 食と政治

## — 胃袋から支配する

「政治は食わせてなんぼ」と言ったのは菅原文太だが、これまで己の信ずるところから「食わない」選択をする人たちもいた。生きることの根幹には食があり、そして政治がある。その密接な繋がりを4回にわけてみていく。

### 第1回 食と全体主義

10月4日

全体主義とはなにか、このところアクチュアリティを増す問いであるが、その原型であるイタリアとドイツの例における農業政策および食糧政策、さらには模範的な食習慣をひもとく。すると、支配の確立あるいは合意の形成に驚くほど関わることに気付く。

### 第3回 食と言説

10月18日

ある食品が流通し消費されていく歴史や過程には、様々な言説が生みだされる。健康や繁栄、美、さらには民族やナショナルアイデンティティまで。第3回はツバメの巣やヨーグルトを事例に食と言説との関わりについて考えたい。

### 第2回 食と甘さの世界変容

10月17日

17~18世紀ヨーロッパのショ糖需要は、アフリカ、新世界を巻き込んだ世界貿易ネットワークと強制的な人口移動、そして組織化された労働力搾取によって連鎖的に増大していった。第2回は、甘さの誘惑がもたらした世界変容の諸相を旧世界・新世界側から見直す。

### 第4回 食と支配・抵抗

10月25日

戦時収容所で食はいかに支配の道具となり、権威に抵抗する手段ともなったのか。食品の見た目はいかに政府の規制や企業戦略と消費者団体の抵抗の拮抗の中から生み出されてきたのか。第4回では、20世紀半ばの米国の事例を通して、食と支配・抵抗の関係を探る。

## アクセス



### 立命館大学 衣笠キャンパス

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

- JR・近鉄 京都駅より 市バス 50・205
- JR 円町駅より 市バス 15・204・205
- 阪急電車 西院駅より 市バス 205
- 阪急電車 大宮駅より 市バス 55
- 地下鉄 西大路駅より 市バス 205
- 京阪電車 三条駅より 市バス 15・59

- 市バス 15・50・55・59にて「立命館大学前」下車 / 徒歩 5分
- 市バス 204・205にて「衣笠校前」下車 / 徒歩 10分 東門



## お問合せ先

立命館大学国際言語文化研究所

TEL : 075-465-8164 E-mail : genbun@st.ritsumei.ac.jp  
URL : <http://www.ritsumei.ac.jp/research/iilcs/>